

第4回大多喜町動画コンテスト

受賞者インタビュー

最優秀賞 「Living with trees 木と共に生きる」 Kenkentavel さん = 神奈川県



<https://youtu.be/uO1DNe-LhkM>

最優秀賞をいただき大変光栄です。今回は、前作「わたしの大好きなまち、大多喜町」（第3回優秀賞）の作風と異なり、人、職人と技術、地域にフォーカスを当て、地域に密着した動画を作ろうと挑みました。僕としても、伝えたいことが伝えられる作品に仕上げられ、嬉しく思っています。

最初は、炭焼きをしている関田さんに会いに行ったのですが、ちょうど大多喜町の美しい紅葉の季節とも重なり、撮影をしていくうちに、今回のテーマは「木」だと感じました。木漏れ日が降り注ぐ森が美しく、木の中を歩くシーンから作品をスタートしようと思いました。

「自然の中に入っていく、自然の中に入っていく、自然の中に入っていく・・・」と心の中で繰り返しながら、人が自然と共に歩む姿を、「木」という視点から撮りました。

炭焼きの工程は事前に電話で聞いていました。一度目の滞在では、木を切るところから窯に入れるところ、栗又の滝と筒森の紅葉など、作品を構成するほとんどのシーンを撮影しました。ただ、この時には火入れの作業はなく、タイミングを合わせて再訪するつもりでしたが、予定が合わず残念に思っていると、関田さんが「火を消しても、何日かは煙が出ているよ」と教えてくれました。それなら「煙」を撮ろうと、再び片道数時間かけて窯を訪れました。こちらの都合で滞在時間はわずか1時間ほどでしたが、煙と関田さんが窯を見ている姿を撮影することができました。結果的にこの煙のシーンが入ったことで、それぞれの映像がつながり、ひとつの作品として完成させることができました。

今回の制作を通じて発見したことは、大多喜町は自然が豊かだということ。また、動画のタイトルと同じですが、自然と共に生きる人々がいること。重労働ゆえに、山の仕事や炭焼きは時代の主流ではないと考えながら、それでもなお、この暮らしを愛し遣そうとする姿こそ、僕が最も迫りたいところでした。チェーンソーで木を切るのも、木を窯に入れるのも、どれも本当に大変な作業だと思いました。

「死ぬまでは働きたいよね。でもそれ、無理だからさあ。まあ体力が、そこまでたぶんもたないよね。ましてやこういう、山をかねての仕事だから。たぶん、木を伐採にいたり、山に登ったりするのが、だんだん出来なくなる」(動画 57 秒から)

関田さんの言葉です。1 日でもながく、炭焼きを続けていただきたいと思います。

今回のコンテストによって、人にフォーカスを当てる作品づくりが僕の中で「形」としてできてきました。今後はさらに人、職人と技術、地域にフォーカスを当てた作品制作に励み、地方創生に関わっていきたいと思います。日本を巡っていて痛感するのは、埋もれてしまい、誰にも受け継がれず、遂には消えてしまう匠の技や職人の姿がとても多いということ。それは大変惜しいことで、僕は職人とその技術にスポットを当て、伝えられることを伝えていきたいと思っています。大多喜町に眠っているものがあれば、ぜひ掘り起こしてみたいので、皆さまからも教えていただきたいです。

僕はこれからも、見たことのないものを見たいですし、知らない世界をもっと知りたいです。さらに自分が見たもの、感じたことを映像化して皆さんに共有していきたいです。カメラを持つ前は、僕たちが感動してそこで終わりでしたが、この「人に伝えられる幸せな手段」を大切にしたいです。

最後に大多喜町動画コンテストは、自分の制作した作品を観ていただき、自分の立ち位置が確認できるチャンスなので、ぜひ応募してみてください。地域の根本となる部分や魅力を、実際に歩きながら探って作品にしていけば、地域の魅力を伝えられると思います。

前回の作品およびインタビュー記事は、ホームページで公開中です。

<https://www.town.otaki.chiba.jp/index.cfm/9,24256,93,html>



受賞作品紹介ページ



喜びの、
おひざもと。

千葉県 大多喜町